

医療連携の充実が鍵

第1回「がん治療パスの構築」 ～どこにいても最良のがん治療を受けるために～

情報過多の現代、人々はどのようにがんを発見し、どのように治療すべきか、最新の正しい情報を求めている。最近では、がん診療連携拠点病院と地域のかかりつけ医が連携して、がん患者を治療する地域診療連携（病診・病病連携）が全国で進められている。自宅に近い医療機関で診てもらえる利便性や心強さは利点だが、大病院でない

と最適な治療が受けられないと考える人も少なくない。今回は、専門の医師の視点から群馬県のがん治療における地域連携の現状や展望について話し合ってもらった。医療相談や公開講座を通じてがん情報を提供しているNPO法人群馬がんアカデミーが、より多くの県民への情報提供を目的に座談会を開き、2回シリーズで紹介する。

働ける治療環境を 関原 メンタルも支えて 杉本



関原 健二（せきはら けんじ） 群馬大学医学部卒業後、同大泌尿器科に入局。同大泌尿器科助手、日高病院泌尿器科部長、同副院長などを経て、2013年から同院長。群馬大病院臨床教授。日本泌尿器科学会専門医、指導医。日本透析学会専門医、指導医。専門は泌尿器科。



杉本 ゆかり（すぎもと ゆかり） 中央専門職大学院戦略経営研究科修士。医療系国家資格養成校長を経て、NPO法人群馬がんアカデミー副理事長、現代医療問題研究所長、オフィスルーチエ代表。専門は医療コミュニケーション、人材教育など。



（左から）内藤浩さん、浅尾高行さん、関原哲夫さん、杉本ゆかりさん

浅尾 県が発行した『ぐんまの安心がんサポートブック』も便利。患者のパスやサポートについて分かりやすく網羅されている。杉本 仕事をしながら治療を続けるための取り組みも不可欠だ。浅尾 外来での抗がん剤点滴治療も、治療日には仕事を休まねばならないという欠点がある。そこで関原医師と協力して新システムを考えた。関原 日高病院では全室個室で受付から採血治療を一カ所ですべて受けられる化学療法センターを新設した。仕事帰りに午後6時から治療を受けられる夜間治療システムも導入し、治療日も仕事を休まなくて済むようにしている。

杉本 緩和ケア、在宅治療について。関原 がんを診断された時点で緩和ケアチームが関わる。本人や家族の心理的な不安を緩和する。患者や家族の集まるがんサロンの定期的な開催やがん経験者が経験談を語るピアサポーター制度もある。

“安心と信頼”で寄り添う



浅尾 高行（あさお たかゆき） 群馬大学医学部卒業後、同大准教授。同大学院病態総合外科（第一外科）准教授を経て、同大学院がん治療臨床学講座特任教授。同大病院TIR副センター長を兼務。専門は、大腸の外科、鏡視下手術、腫瘍学、がんの転移。



内藤 浩（ないとう ひろし） 群馬大学医学部卒業後、同大第一外科助手などを経て、群馬中央病院医務局長兼地域医療連携センター長兼消化器・肛門疾患センター長兼外科主任部長。専門は、消化器外科、特に大腸外科。地域連携にも関わる。

杉本 治療の標準化の具体例は？内藤 大腸がんでは、腫瘍部位やステージ別に治療の流れが決まっています。拠点病院なら標準的な治療が受けられる。杉本 がんは、自分だけではなく、家族や職場にも関係してくる。関原 氾濫した情報の中から、確度の高い信頼できる情報を見つけて、患者さんの全身を把握して、かかりつけ医の役割は極めて大きい。一方、かかりつけ医からは、地域連携センター（http://www.nc-c.go.jp/jp/）が

杉本 遠慮は無し。杉本 診断や治療法を確認したい。また、納得できないときにセカンドオピニオンがあるが、他の医療機関への受診は担当医師に遠慮して躊躇しがち。内藤 最近の医師はセカンドオピニオンに抵抗感はない。むしろ自分の勉強にもなり、意見も聞きたい。ただし、進行の早いがんもあり、その場合には注意が必要である。杉本 セカンドオピニオンの手順は？内藤 具体的にいきなり病院があれば、紹介状を書く。行くべき病院が分からない場合は、相談に乗って専門医を紹介している。浅尾 セカンドオピニオンの基本は、画像診断、採血結果、病理診断などの医療情報を含めた紹介状があること。そうでないと、判断できない。

杉本 早期発見・早期治療が、何よりの治療だ。人間ドックにも多種多様なメニューがあり、がん検診を組み込んだメニューを勧めたい。杉本 早期発見には、検診を受けることが第一。再検査が必要なら速やかに受けてほしい。

包括的にサポート 浅尾 在宅までリレーで 内藤

杉本 患者のメリットは、

内藤 拠点病院や連センターがあり、地域のクリニックとのつながりや連携、顔の見える連携、つくりが

杉本 がんは、自分だけではなく、家族や職場にも関係してくる。関原 氾濫した情報の中から、確度の高い信頼できる情報を見つけて、患者さんの全身を把握して、かかりつけ医の役割は極めて大きい。一方、かかりつけ医からは、地域連携センター（http://www.nc-c.go.jp/jp/）が



『ぐんまの安心がんサポートブック』
がんによる不安を感じたり、心配している人々に向けたガイドブック。相談窓口やサポート制度などをはじめ、がんに関わる情報が満載されている。ホームページ（http://www.pref.gunma.jp/02/d2900291.html）からもダウンロードできる。問い合わせは県健康福祉部がん対策推進室（☎027・226・2614）へ。

杉本 必ず再検査を。次回、標準治療では対処できないがんの治療や最先端医療について取り上げよう。